



志村学園

新たなステージへ

校長 並木 信治

日に日に陽射しは暖かさを増し、学校敷地内の桜も一気に開花が進みました。18日(土)には、令和4年度卒業式が無事挙行され、77名の卒業生が晴れやかに巣立っていきました。それぞれの道で、自分らしく輝く人生を歩んでいけることを、願ってやみません。

本日の修了式をもって、今年度の教育活動は終了いたしました。第7波、第8波と二度に渡る感染拡大を経験した今年度でしたが、基本的感染症対策を着実に実施することで、水泳活動の再開や宿泊を伴う学校行事の実施など、少しずつ本来の教育活動を取り戻すことができたことは、大きな前進であったと感じています。改めて、各御家庭の御理解、御協力に感謝申し上げます。

この一年間、生徒たちの成長も目覚ましいものがありました。新たな環境に戸惑いを見せていた1年生は、すべてのコースを体験することで、「働くステキな大人」になるための本校での学びの基礎をしっかりと身に付けました。「先輩」となった2年生は、それぞれの系列・コースでの学びを深めるとともに、部活動や行事等のあらゆる場面で、積極的な活躍を見せていました。4月から、それぞれに進級した新たなステージで、更に力を伸ばしていくことと期待しています。

文部科学省からの通知に基づき、学校における感染症対策の在り方も新たなステージを迎える見込みです。次年度も充実した教育活動を展開できるよう、尽力してまいります。引き続き、御理解、御協力いただきますよう、お願いいたします。



新時代 踏み出そう～新しい時代へ～

副校長 阿出川千賀子

このタイトルは、8期生の卒業文集の表題です。8期生はコロナ禍を乗り越え、アフターコロナの社会へ旅立ちました。状況をしっかりと受け止め、それぞれがしっかりと一歩を踏み出そうとしていることが伝わってきます。

志村学園としても10周年を迎え、良き伝統のもと変化に対応していく新たな時代へ踏み出しています。場所や人も含めて環境が変わるということに、希望だけでなく不安も抱くのは当然のことだと思えます。しかし、環境の変化は、学ぶことが多く、成長のチャンスになります。志村学園で大切にしている「GRIT」と「前向きな気持ち」、「相談する力」等をもって、これからもともに成長していきましょう。

保護者の皆様、関係の皆様がたくさん御理解、御協力に心から感謝申し上げます。

都立志村学園高等部就業技術科卒業式 第八期生答辞

第3学年主任 渡辺 史子

令和5年3月18日（土）に、就業技術科の卒業式が行われ、第八期生は立派に社会に巣立っていきました。卒業生の答辞を紹介します。

答 辞

肌寒い風が吹きつつも、咲き始めた桜の花に春の訪れが感じられる今日。私たち卒業生のために晴れやかな卒業式を挙げていただき、心より感謝申し上げます。

三年前の私たちは不安と期待に胸を膨らませ、志村学園の門をくぐりました。まだ知らぬ環境に戸惑いながらもどんな学校生活になるか想像していたことを思い出します。入学式では、先生や先輩方が温かく迎えてくださいました。しかし新型コロナウイルス感染症の拡大で、学校に登校することもままならない状況になりました。

入学してすぐに自宅学習になり、約二ヶ月間続きました。今後の学校生活や部活動、新しい友達ができるのかなど今後どうなるか不安でいっぱいでした。そんな中で先生方がオンラインでのHRや課題のプリントを用意していただき、学校に通えない私たちのために工夫してくださったことを思い出します。

六月に入り登校が始まり、全く新しい環境に慣れるのが精一杯の一年生。職業に関する教科は驚きと戸惑いの連続でした。しかし職業に関する教科では、特別専門講師の先生方から基礎知識はもちろん、本格的な技術も学ぶことができました。友達と切磋琢磨し三年間継続し続けたことで、たくさん知識を吸収でき、自分のものにできたことは何より自信につながりました。

そして多くの企業に就業体験や現場実習に出させていただくことができ、その経験の中でコミュニケーションを取る大切さや今の自分に足りないものを自覚し、その後の学校生活に活かすことができました。

一年生の時は一度も行われなかった校外学習が二年生から行われ、心待ちにしていた修学旅行に行くことができました。長崎を訪れることはできませんでしたが、オンラインの形で長崎の景色を目にしたり、平和祈念館の方のお話を聞いたりして、多くの事を学び、お台場ウォークで友達と楽しく過ごすことができました。三年生では江戸・東京ウォークでかけがえのない思い出ができました。本当はもっといろいろな友達としゃべりながら給食が食べたかった。もっと行事をやりたいかった。この不満を忘れさせてくれるほど、みんな笑顔になる活動でした。

部活動でもたくさんの思い出があります。私は科学パソコン部に入りましたが、最初はパソコンの入力が本当に苦手でした。そんな私が部活動の仲間と共に練習することで、三年生になるころにはパソコン入力はかなり上達し検定に合格することができました。また、三年生で部長になり、全体を引っ張っていく立場で、不安も大きかったですが、いろいろな人の支えがあり、よい仲間と出会うきっかけにもなり充実した部活動でした。

経営企画室の方をはじめとする職員の方々。書類のことや学校設備のこと、毎日のおいしい給食など、多くの所で私たちは支えられてきました。三年間本当にありがとうございました。

志村学園の先生方は、今まで私たちの成長を見守ってくださりました。先生方がどんな時も真剣に向き合っていて、考えてくださったおかげで安心して学校生活を送ることができました。勉強だけでなく、人としてどう生きていくかを未熟な私たちに寄り添いながら教えてくださいました。

そして今まで一番近くで支えてくれたのは保護者の皆様でした。今日までの日々の中に、私たちにはたくさんの変化があったと思います。自分自身でも気持ちの整理が追い付かないこともありました。なかなか素直になることができずたくさん反発もしました。それでも変わらずいつも温かく見守ってくれた保護者の皆様にも感謝の気持ちでいっぱいです。

今日の卒業で私たちはそれぞれ違う道を進んでいきます。これまでで最大の人生の節目にあたり、成人として社会で果たす役割を自覚しなければなりません。これから想像もできないような困難に直面するかも知れません。でも志村学園での生活がコロナ禍という前例のない道を進んできた私達だからこそ、困難を乗り越える力を身に付けました。志村学園の校訓の「継続は力なり」を胸に刻み、私たち八期生は未来への一歩を踏み出していく事を誓い、答辞の言葉とさせていただきます。